

# “まちづくり” “まちおこし” としての「八景」

——現代の八景を中心に——

藤田 洋治・和田 康一郎

## はじめに

地域を活性化する、あるいは地域をより人々に知ってもらい、愛着を持ってもらう、という試みには、いろいろな方法があるであろう。この度は、八景という観点で考察を加えてみたい。「八景」とは、一地方の八つの景勝を選んだものである。中国で瀟湘八景として描かれ詠われたものが、日本に伝わり、日本の八景詩、そして八景和歌として全国に広まったものである。古来親しまれてきた「八景」という方法について、改めて考えてみたい。今までは絵画として、あるいは文学として対象にされることはあったが、まちおこしとして別角度から見るとどうなるのだろうか。ランドマークとして、その地域の名勝地、あるいは観光スポットとして、観光という面から考察してみる。

## 一 八景の歴史

そもそも八景という概念が日本に輸入されたのは、決して新しいことではない。中国の名勝でもあり、文学的な憧憬もある瀟湘の地を選んで作られた瀟湘八景が宋の時代に日本に伝わり、日本でも瀟湘八景はあるいは描かれ、漢詩として創作されていた。15世紀頃のことである。やがて絵画に、漢詩と和歌を組み合わせるという動きも起こり、日本風な八景和歌が誕生することになる。

八景和歌が作られると、日本の八景に瀟湘八景を当てはめたものが生まれてくる。著名なものとしては、近江八景であり、南都八景であり、金沢八景などである。やがて、近世期中期以降になると、八景は風景画と和歌という組み合わせが多くなり、八景詩は少なくなっていく。そのような流れの中で、さらに多くの『八景』が各地で生成する。その一因として、近世期の往来物にも八景和歌が風景画とともに掲載されることが多かったことがあげられる。また大名などがその領地に八景を選定する水戸八景のような例も考えられよう。『八景』が一つの文化となっていくのである。いずれも、地名に「夜雨」「晩鐘」「落雁」「帰帆」「夕照」「秋月」「暮雪」(標準的なパターン)を付して、その地域の八風景を描き、和歌あるいは漢詩を付けたものなのである。その地域ごとに、名勝が選定されることになる。地域によって、「帰帆」や「落雁」など、一部を変更しているものも多いが、いずれにしても、風景を描き、和歌などを加えた八景が生成されてきたのである。

さて、この八景が江戸時代におけるランドマークの作成、景勝地の選定という形で既に終わってしまったのだろうか。八景は過去の遺物なのだろうか。あるいは、現在も八景を選定するという文化は存続しているのであろうか。

## 二 現代知られる八景

国立環境研究所のホームページ、ポスターセッションには、日本の八景についての調査が掲載されている。そこには歴史的な観点から次のように記される。

4世紀の中国に始まった山水画の一つに、宋の時代10世紀に描かれた瀟湘八景画がある。この絵

は14世紀に我が国に伝わり、風景の一つの見方を日本人に教え、以来5世紀以上に及んで、日本人の風景評価に大きな影響を与えた。

と、記した上で、「400を超える八景を日本の各地に見いだすことになった」として、次のように一覧にしている。驚くべきことは、「中国国内だけではなく、朝鮮やベトナム、シンガポールまで伝わったことが明らかになった」という当時における中国文化の影響力ではないだろうか。

**八景の名称** \* ( ) は主たる分布域；市町村：○は瀟湘八景を踏襲したもの、△はその変形。

\* 2001年7月現在、都道府県調査の結果。

\*\* 引用に際し市町村名は、当時のものに準ずる。なお、八景以外を後に移動するなど、稿者が順序を一部変更し、明らかな誤字は訂正したが、内容はそのまま引用した。

**全国** 日本八景、新日本八景

**北海道** 室蘭八景（室蘭市）／観光十景（厚岸町）

**青森県** ○八戸八景 新八戸八景（八戸市）○平内八景 平内八景（平内町）○蟹田八景（蟹田町）唐竹八景（平賀町）○西又八景（川内町）／津軽十景（弘前市）深浦十二景（深浦町）小泊名所十二景（小泊町）

**岩手県** ○盛岡八景（盛岡市）

**宮城県** △鳥ノ海八景（亘理町）○三珠八景 ○宮戸島八景 △岩ヶ崎八景 △広淵沼八景 △鼎浦八勝 ○仙府八景 ○宮城八景 塩釜八景 △松島古八景 松島新八景 塩松八景（仙台市）○石巻八景 ○渡波八景（石巻市）○名取八景 関上八景（名取市）△角田八景（角田市）△玉浦八景 △岩沼八景（岩沼市）△吉岡八景（大和町）金山八景 大内八景（丸森町）△松島八景 松島八景詩（松島町）△岩出山八景 △上野目里八景 池月八景（岩出町）○築館薬師八景（築館町）花山八景（花山村）△河股八景（河南町）寄磯八景（牡鹿町）矢本八景（矢本町）長面八景（河北町）○泉谷八景（瀬峰町）／鶯沢十景（鶯沢町）

**秋田県** ○八景館城珠 大館八景1～3 新大館八勝（大館市）○本荘八景（本荘市）○双六八景（男鹿市）○小阿仁八景（上小阿仁村）○不楼閣八景（増田町）○沼館八景 ○今宿八景（雄物川町）／秋田十二景

**山形県** △米陽八景（米沢市）寒河江八景 ○常林寺八景 ○村山八景 ○白岩八景図（寒河江市）○上の山八景 上山の八眺望（上市市）△円泉八勝（南陽市）○沢畑八景（河北町）長沢八景（舟形町）○糠野目八景 露藤八景（高島町）△玉庭八景（川西町）△小国八景（小国町）○狩川八景（立川町）廣瀬八景（羽黒町）／山形市街十景 山形十景（山形市）酒田十景（酒田市）慈恩寺十景（寒河江市）

**福島県** 本覚寺八景（会津若松市）○猪苗代八景（猪苗代町）△平曲松八景 △窪田八景 ○小名浜八景（いわき市）△北山八景（相馬市）矢祭八景（矢祭町）

**茨城県** ○水戸八景 ○常陸八景 ○霞浦八景 ○新霞ヶ浦八景 ○千波沼八景 栗里八勝 神崎八景（水戸市）○東河内八景 川尻八景 △田尻八景 ○滑川八景 会瀬八景 諏訪八景 大久保八景 △河原子八景 △久慈八景 坂下八景（日立市）○土浦八景 ○土浦八景沼尻（土浦市）○古河八景（古河市）○石岡八景 新撰石岡八景（石岡市）△下館八景（下館市）○鹿島八景 ○鹿島八景（鹿嶋市）△岩間八景（岩間町）石神八景（東海村）○那珂町八景 ○菅谷八景 那珂八景 △本米崎八景 ○木崎八景（那珂町）瓜連八景（瓜連町）○辰ノ口八景（大宮町）△山田八景 △天下野八景（水府村）△大子八景 △下金沢八景 羽黒八景 見落とし八景 八竜八景 八祭八景 ○久慈八景（大子町）○北浦八景（鉾田町）○潮来八景（潮来町）○桜川の八景

(岩瀬町) △大宮八景 (霞ヶ浦町) ○八郷八景 △八郷八景昭和 (八郷町) ○真壁八景 ○椎尾名所八景序 (真壁町)

**栃木県** 日光八景 (日光市)

**群馬県** △前橋八景 △前橋公園八景 △上細井四季八景 (前橋市) ○並榎八景 △大染寺八景 倉賀野見立八景 天王山八勝 長松禪寺八景 △高崎八景詩画 (高崎市) ○伊勢崎八景 西長岡八景 (伊勢崎市) 沼田八景 (沼田市) △館林八景 △高根八景 (館林市) 渋川八景 渋川八景 有馬八勝 石原八景 (渋川市) 藤岡八景 (藤岡市) △安中八景 △後閑八景 ○秋間八景 △磯部八景 (安中市) ○八崎八景 (北橋村) △室田八景 ○本郷八景 (榛名町) 金古八景 (群馬町) 新撰伊香保八景 伊香保八勝 伊香保八景 新伊香保八景 (伊香保町) 野田八景 (吉岡町) 中山八景 尻高八景 (高山村) 黒岩八景 (月夜野町) ○西丘八景 (板倉町) 群馬名勝書 群馬名勝 (利根郡) / △前橋十景 前橋市街十景 前橋十二景 (前橋市) 渋川十景 (渋川市) 後園十二景 (吉岡町) 吾妻峽の十勝 (長野原町) 小保方の三景 (東村) 沼田名園十地 (利根郡) 赤堀十景 (赤堀町)

**埼玉県** △三郡八景 ○熊谷八景 (熊谷) 越谷八景 (越谷市) 幸手八景 (幸手市) 長瀨八景 (長瀨町)

**千葉県** ○印旛八景 (印旛村) ○国府台八景 (市川市) ○南総八景 (袖ヶ浦市) ○木更津八景 (木更津市) 房総八景 (東金市) 一宮八景 (一宮町) 姉ヶ崎八景 (市原市)

**東京都** 中央区八景 (中央区) 六義園八景 (文京区) ○江戸八景 (台東区) ○隅田川八景 1～4 (墨田区) ○深川八景 (江東区) 大崎八景 ○荒蘭ヶ崎八景 (品川区) ○千束村八景 ○江戸近郊八景 都南八景 (大田区) ○武陽玉川八景 玉川瀬田村占勝亭八勝 (世田谷区) 雑司谷八塚 (豊島区) 東都八景 江戸八景 (北区) 八王子八勝 △八王子八景 (八王子市) 井の頭八景 (三鷹市) 青梅八景 (青梅市) 昭島八景 (昭島市) ○府中八景 (府中市) ○江戸近郊八景 △江戸八景 今様東京八景 武埜八景 (小金井市) 調布八景 (調布市) 慈岳山松連寺八景 (日野市) 狛江八景 (狛江市) 狭山八景 (武蔵村山市) 平尾八景 (稲城市) 新大島八景 (大島町) / 立川村十二景 (立川市) ふっさ十景 (福生市) 清瀬十景 (清瀬市)

**神奈川県** ○金沢八景 鶴見八景 横浜八景 ○屏風ヶ浦八景 (横浜市) ○北郷八景 ○横須賀八景 ○浦賀八景 △吉井八景 (横須賀市) ○宮田八景 三崎八景 (三浦市) ○平塚八景 (平塚市) 江島八景 (藤沢市) ○田越八景 ○逗子八景 (逗子市) △竜峰寺八景 紹大寺清浄八景 (海老名市)

**新潟県** ○奉納新潟八景 △鳥屋野潟八景 (新潟市) 福浦八景 (柏崎市) ○五十公野八景 ○新発田八景 清厨園八景 (新発田市) △新津八景 (新津市) 橋田邑八景 橋田邨八景 (五泉市) ○加茂湖八景 (両津市) 安田八勝 安田八勝歌 ○保田八興 繁栄歴近郷 (安田町) ○横越八勝 (横越町) △亀田八景 △関山八景 (亀田町) ○相川八景 (相川町) ○二宮八景 ○河原田八景 △長木八景 △八幡八景 ○沢根八景 (佐和田町)

**富山県** 有磯八景 ○加納八景 灘浦八景 (氷見市) 山田八景 (山田村) 城端八景 (城端町) 井波八景 (井波町)

**石川県** 金沢八景 ○大乘寺山八景 上野八景 (金沢市) △七尾八景 ○湧浦八勝 1・2・3 能登八景 (七尾市) ○加州八景 ○能美八景 (小松市) △輪島八景 (輪島市) ○三崎八景 長浜八景 (珠洲市) △山代八景 ○鹿島八景 (加賀市) ○邑知八景 (羽咋市) 山中八景 (山中町) 鶴来八景 (鶴来町) ○富来八景 (富来町) ○神代八景 ○志賀八景 (志賀町) ○中居八景 (穴水町) ○黒島八景 △皆月八景 (門前町) ○鶴川八景 (能都町) / 金沢十景 湯涌十景 (金沢市) 山中十景 山中十二景 (山中町) 鶴来十二勝 (鶴来町) 吉野十景 (吉野谷村) 総持寺十境 1・2 (門前町) 鶴川十二景 (能都町)

**福井県** ○敦賀八景（敦賀市）勝山八勝詩歌（勝山市）／靈応山十二景（勝山市）  
**山梨県** △甲斐八景 塩山八景（塩山市）△岩手八景 山梨市八景（山梨市）／山梨十名所 山梨新十景 塩山十名所（塩山市）富嶽十二景（大月市）  
**長野県** △木曾八景 諏訪八景 諏訪八勝 会地八景（上田市）  
**岐阜県** 岐阜県新八景  
**静岡県** ○静岡八景 ○佐鳴八景 浜名八景 天竜川八景 ○浜松八景 △館山寺八景（浜松市）沼津八景1～3 牛臥八景1・2 新沼津八景（沼津市）熱海八景（熱海市）三島八景（三島市）○富士八景（富士市）△御厨八景（御殿場市）光明八景（天竜市）○下田八景 ○白浜八景 須崎八景（下田市）△修善寺八景 △修善寺八勝（修善寺町）潮海寺八景（菊川町）福田八景（福田町）宇布見八景（雄踏町）△浜名湖八景 ○細江八景（細江町）／沼津十二景1～3（沼津市）富士十二景図（富士市）志太九景（藤枝市）  
**愛知県** ○尾張八景（名古屋市）○一宮八景 ○西大海道八景 △荻原八景 △光明八景（一宮市）△瀬戸八景 △本地八景 山口八景（瀬戸市）半田八景（半田市）△味鏡原八景（春日井市）△刈谷八景（刈谷市）衣里八景（豊田市）西尾八景（西尾市）八橋八景（知立市）新居八景（尾張旭市）○禱護山八景（高浜市）蟹江八景（蟹江町）△篠島八景（南知多町）○長久禅院八景 一色八景 △佐久島八景（一色町）△足助八景（足助町）／幡豆十名所（幡豆町）上野山十景（御津町）一色十二景 △佐久島八景（一色町）幡豆十名所（幡豆町）上野山十景（御津町）  
**三重県** ○神津八勝 ○洞津八景1・2・3 省事亭随筆阿濃津八景 洞津八勝 津城八景（津市）△采女郷八景 △智積八景 五百山八景（四日市市）医王山八景（上野市）岩山八景（亀山市）多度八景（多度町）△相可八景（多気町）丹生八景（勢和村）○治田八景 ○揚木八景 川原八景（北勢町）／欣々亭十二景（上野市）  
**滋賀県** ○近江八景 琵琶湖八景 高島八景（高島町）／近江十景 楽々園十景（彦根市）  
**京都府** △修学院八景 城市市原山八景 洛西嵯峨八景 稻荷山八景 東山泉涌寺八景（京都市）田邊八景（鶴舞市）綾部八景 △由良川八景（綾部市）宇治八景（宇治市）○宮津八景（宮津市）青谷八景（城陽市）○常光山八景（田辺市）須知八景（丹波町）／洛陽十景 東山十景 清水十景 紫雲山十景 愛宕十景 修学院御苑十景 醍醐十景（京都市）△大住十景（田辺市）  
**大阪府** 浪花八景 浪花八勝 華城八景 大坂八景 難波茶里八景（大阪市）住吉八景 堺八景 堺八景図（堺市）△狭山八景（大阪狭山市）／難波十二景 難波十観（大阪市）富景楼十景（東大阪市）  
**兵庫県** ○須磨八景（神戸市）△飾磨江亭八景 府中雄徳山八景 八代別野八景 △飾万津八景 青山八景 ○的形八景（姫路市）赤石八景 明石八景 新明石八景（明石市）○西宮八景（西宮市）東条湖八景（東条町）加古八景（稲美町）△竹田八景（和田山町）△三日月八景（三日月町）○きのさき八景（城崎町）／△有馬六景 有馬十二景 明石城十景（明石市）由良十二景（洲本市）△精道十景 芦屋十景（芦屋市）那波十景 那波浦十景（相生市）△曾禰十二景 生石子四景（高砂市）母子十景（三田市）法華山十二景（加西市）家島十一景（家島町）岩屋十景（淡路町）国府十景 由良十二景（三原町）  
**奈良県** 南都八景（奈良市）  
**和歌山県** ○南浦八景（和歌山市）清水町八景（清水町）すさみ八景（すさみ町）本宮町吊勝八景（本宮町）  
**鳥取県** 因幡八景（鳥取市）○米子八景1・2・3 △錦海八景（米子市）  
**島根県** 松江八景（松江市）△浜田八勝（浜田市）○古志八勝（出雲市）○益田八景（益田市）安来八景（安来市）島根八景（八雲町）△神西湖畔九景（湖陵町）出雲大社八景（大社町）／宍道湖十景（松江市）

**岡山県** 西大寺八景 新西大寺八景（岡山市）○高梁八景（高梁市）○片上八景 △鶴海八景 三石八景 ○友延八景 修西法院八景 大滝山八景（備前市）○吉岡八景（瀬戸町）山方の八景（吉井町）錦海八景 虫明八景1・2（邑久町）奈義八景（奈義町）△国府八景（長船町）△有漢八景（有漢町）奥津溪八景（奥津町）鏡野八景（鏡野町）／笠岡二十勝（笠岡市）備前国大滝山福生寺十二景（備前市）

**広島県** 縮景園八勝・神崎八景（広島市）厳島八景（宮島町）

**山口県** ○萩八景（萩市）仙崎八景（長門市）／下関十二景 長府十二景（下関市）山口十景（山口市）大寧寺十景（長門市）

**徳島県** なし

**香川県** ○讃岐国亀山八景（高松市）寒霞溪裏八景（内海町）○庵治八景（庵治町）象頭山八景（琴平町）○多度津八景（多度町）浦島八景（詫間町）／△讃州丸亀十二景（丸亀市）津田浦十景（津田町）象頭山十二景（琴平町）

**愛媛県** 愛媛八勝 道後八景・郡中八景（松山市）双岩八景（八幡浜市）○氷見八景 禎瑞八景（西条市）○大井八景1・2（大西町）○菊間八景 乃万八景（菊間町）長浜八景（長浜町）御荘八景（御荘町）／伊予十二景 愛媛十二景 道後十二景 高濱十勝 伊予鉄道沿線十二景（松山市）石土十四景（西条市）吾川十二景（伊予市）△西明神金毘羅山十景（久万町）朝倉三景（朝倉村）大三島六景（大三島町）△砥部十景（砥部町）高加茂三景（小松町）

**高知県** ルック土佐 四万十川八景（十和村）

**福岡県** 彦山八景（添田町）／広寿山十六景（北九州市）彦山十二景（添田町）

**佐賀県** 肥前国多久八景詩（多久市）塩田八景（塩田町）三瀬八景（三瀬村）△北方八景（北方町）

**長崎県** 北松八景 ○長崎八景1・2（長崎市）平戸八景（佐世保市）しょうよう八景（島原市）小値賀八景（小値賀町）浅海の八景（美津島町）／新浅茅十景（美津島町）

**熊本県** ○川尻八景・臨流八景（熊本市）八代八景 ○林鹿庵八景（八代市）菊池八景（菊池市）三角八景（三角町）○松橋八景（松橋町）戸下八景（長陽村）芦北八境（芦北町）／成趣園十景 谷隠軒十景（熊本市）薫夢庵十五景（松橋町）野坂浦十景（芦北町）

**大分県** 別府八景（別府市）中津八景（中津市）○佐伯八景1・2 △佐伯八勝1 ○佐伯八勝2 ○佐伯城八景（佐伯市）○臼杵八景（臼杵市）別府湾八景（日出町）○蒲江八景（蒲江町）／別府三勝（別府市）文殊十景（国東町）

**宮崎県** ○福島八景（串間市）田原八景 河内指野八景 河内八景 △下野八景（高千穂町）

**鹿児島県** 鹿籠八景（枕崎市）○鹿児島八景（加世田市）○坊津八景（坊津市）○伊作八景（吹上町）紫尾八景 加治木八景（加治木町）曾於八景（大隅町・末吉町）含粒寺山八景（吾平町）／奄美十景（大島支庁）吉利十二景（日吉町）柏原大願寺十二景（鶴多町）

**沖縄県** 琉球八景（那覇市）中山東苑八景（那覇市）首里八景（那覇市首里）同楽苑八景（那覇市首里）

今、国立環境研究所のホームページ、「ポスターセッション10」によって示したが、かなり正確に調査しているものの、例えば室町期の『博多八景』や浮世絵で有名な『飛鳥山十二景』が漏れているような微かな瑕瑾はある。しかし、これだけの調査は積極的に活用すべきであるし、かつこの調査で知り得た八景も少なくない。

とりわけ美術・文学の方向から論じられてきた『八景』という景観を、環境という方向から、かつ日本を超えた視点で捉えている点は大いに評価されるべきものであろう。よって、この資料を単に並び替えるというだけで一覽にした次第である。そして、環境として、あるいは環境という視点から景勝地を見るという方法論は、「まちづくり」や「まちおこし」の視点とかなり近いものがあ

ると考えるからである。

○印のものは、瀟湘八景や近江八景・金沢八景と同じ「夜雨」「晚鐘」「落雁」「帰帆」「夕照」「秋月」「暮雪」の八景をもつもので、この表では159個、△印は、瀟湘八景などの八景題の一部を変更しているもので、104個である。無印のものは、題が全く異なっているものと調査できないものと思われる。これをさらに詳細に分析することが目的ではないので、本稿の目的に関して、この表から窺えることをまとめておきたい。

その一つは、北海道から沖縄まで、徳島県を除いた日本全国に分布していること。二つ目は、伝統的な八景詩もあり、伝統的な八景和歌（上の一覧の○や△）の分布もかなり広い範囲に見られること。そして三つ目として、明治期以降の八景が幾つか指摘できることである。

### 三 「八景」は過去の遺物なのか

絵画でも文学でも江戸時代までのものを対象に選ぶのが普通であるが、明治以降の八景は、なかったのだろうか。先の表の、例えば、北海道の室蘭八景、厚岸町の観光八景、東京の今様東京八景、岐阜県新八景、愛媛県の伊予鉄道沿線十二景、高知県のルック土佐などが目につくところであるし、また宮城県の松島新八景や秋田県の新大館八景のように、「新」が付された八景も見られるのである。これらは新たに作られたことを表していると思われる。名称から成立が新しいと思われるものも存在する。例えば茨城県の八郷八景昭和（八郷町・現石岡市）や東京都の中央区八景などは、名称から明らかに昭和に選定されたものであろうし、高知県のルック土佐も新しいと思われる。

さて、大正時代に選定されたものは、次に示す山形県の玉庭八景である。

#### 玉庭八景

- |           |                              |
|-----------|------------------------------|
| ① 建岩の奇勝   | 玉庭の名勝いかにと人間はば躑躅に匂ふ春のたていは     |
| ② 普濟寺の晚鐘  | 普濟寺の鐘の音たかくなり渡り夕べさびしや酒町のさと    |
| ③ 象頭の山の晴嵐 | 吹きささぶ飯豊の嵐しづまりて象頭の峯の空晴れ渡る     |
| ④ 石橋の秋月   | 玉庭の玉の光とあふぐかな石橋山の秋の夜の月        |
| ⑤ 熊の上の夕照  | 熊の上の松に夕日のかげ見えてふもとのさとは早暮れにけり  |
| ⑥ 沼田の落雁   | まなびやの文よむこゑにさそはれて沼田に落つる雁のひとむれ |
| ⑦ 松尾の暮雪   | むらがらすねぐら求むる声すなり松尾の森の雪の夕暮れ    |
| ⑧ 古館の夜雨   | 馳なく声ものさびし小夜ふけて雨しづかにもふるだてのあたり |

この八景和歌は、大正2年に玉庭小学校創立第十週年記念祝賀会が発行した『郷土史』に掲載されている。建岩、普濟寺、象頭の山、石橋、熊の上、沼田、松尾、古館はいずれも旧玉庭村の地名である。小学校創立10周年を記念して選定され、和歌（短歌）も詠まれたのである。現在、沼田に小学校はなく、八景を描いた絵も存在しないが、和歌だけは残ったのである。

ところで、水戸八景は、江戸末期の天保4年（1833）に、時の藩主徳川斉昭が水戸の近郊の名勝を、近江八景になぞらえて選定した著名なものである。なお、藩子弟の士気鼓舞・武事鍛錬のために、次の掲載順での行程で「八景めぐり」が奨励されたもようである。また、漢詩では（ ）内丸数字の順、で八景が登場する。

#### 水戸八景

- |      |             |                             |
|------|-------------|-----------------------------|
| 青柳夜雨 | 雨夜更遊青柳頭 (②) | 夜雨に小舟くだせば夏かげの柳をわたる風の涼しき     |
| 太田落雁 | 太田落雁渡芳洲 (④) | さしてゆく越路の雁の越えかねて太田の面にしばしやすらふ |
| 山寺晚鐘 | 山寺晚鐘響幽壑 (③) | つくづくと聞くにつけても山寺の霜夜の鐘の音ぞ寂しき   |
| 村松晴嵐 | 遥望村松晴嵐後 (⑦) | 真砂地に雪の波かと思えるまでに塩霧晴れて吹く嵐かな   |
| 水門帰帆 | 水門帰帆映高楼 (⑧) | 雲のさかひ知られぬ沖に真帆あげてみなの方によする釣り舟 |

岩舟夕照 霞光爛漫巖船夕 (⑤) 筑波山あなたはくれて岩船に日かげぞ残る岸のもみぢ葉  
広浦秋月 月色玲瓏広浦秋 (⑥) 大空の影をうつして広浦の波間をわたる月ぞさやけき  
仙湖暮雪 雪時嘗賞仙湖景 (①) 千重の波よりてはつづく山々を越すかとぞみる雪の夕暮れ

このような伝統的な八景があるにも関わらず、平成8年に「新・水戸八景」が市民投票によって選定されている。

#### 新・水戸八景

1. 弘道館と水戸城の濠
2. 保和苑と周辺史跡
3. 偕楽園と千波湖周辺
4. 水戸芸術館
5. 備前堀
6. 大塚池公園
7. 大串貝塚ふれあい公園
8. 森林公園と楮川ダム

この「新・水戸八景」には、詩句も和歌（短歌）もないが、八景そのものが新たに選定されたことを示している。しかし、別の視点から考えれば、八景という伝統的な枠組みを利用して新たなランドマーク、観光スポットを作り出したとも言えるのではなかろうか。

平成になってから、新たに八景が作られている例証である。

## 四 昭和の小説の中の「八景」

昭和は改元早々に「日本八景」選びの催し（昭2、大阪毎日新聞・東京日日新聞共同主催、鉄道省後援）が行われた時代である。

昭和文学の中に八景がどのようにとり上げられているかは、詩歌方面も丹念に検証しなければならぬ。しかし、本稿の狙いは文学研究でなく、地域の活性化の試みに向けるためのものにつき、著名な作家の作品に限定して例を紹介し、考察したい。

「八景」に関連する小説として、まずは太宰治「東京八景」（昭16・1「文学界」）が挙げられよう。自身の十年間の東京生活を、青春との訣別の意味をこめて、その時々風景に託して描きたいと、作中に語られている。しかし、その意図は達成されていない。東京生活は回想されているが、作中に挙げられる十一の景色に託されているとは言えない。題の「八景」を超える例が挙げられるが、数を絞り込む作業はなされない。そのうえ春から夏にかけて見つけたとして、さらに二景が加えられている。この追加の風景に関しては、「師匠のSさんと悪い弟子の私」「出征兵士を見送る義妹と私」という構図が出来ていて、風景と関連付けて作品が展開されている。太宰治はあまり風景美を描かない作風の作家で、「芸術になるのは東京の風景でなく風景の中の私であった。」と作中で試みの総括をしている。

ちなみに十一の景色とは「戸塚の梅雨」「本郷の黄昏」「神田の祭礼」「柏木の初雪」「八丁堀の花火」「芝の満月」「天沼の蝸」「銀座の稲妻」「板橋脳病院のコスモス」「荻窪の朝霧」「武蔵野の夕陽」である。作家が転居や入院をした辺りの景色から選ばれている。加えられた二景は、「銀座の橋」「増上寺山門」である。なお、「銀座」は昭和58年に「中央区八景」に選定されている。「神田の祭礼」は「中央区の祭り」として、また、「銀座の橋」は「隅田川8橋」として、25年後の平成20年、「おほこ十八景」（旧「中央区八景」を含む）に選定されている。既選定の、あるいは今後選定される八景と、作家が選んだ八景が重なる例が、今後も見出されていく可能性もあろう。

数にこだわらないものの、実数に近い「十景」「十三景」よりも「八景」が小説の題に選ばれている点にも、注目点である。次に紹介する作家も、表題と数の不一致には、こだわっていない。

田辺聖子には、自らの戦時下・戦争直後の女学生時代（の前後を含む）を回想し、少女の目から見た時代状況を再現した小説が、『私の大阪八景』（昭40・11文藝春秋新社）である。「八景」と題にあるが、中心に描かれたのは5箇所である。章題と初出とともに、次に挙げる。

- 「その一 民のカマド〈福島界限〉」(昭36・12「のおと」)
- 「その二 陛下と豆の木〈淀川〉」(昭37・9「大阪文学」)
- 「その三 神々のしっぽ〈馬場町・教育塔〉」(昭38・7「大阪文学」)
- 「その四 われら御盾〈鶴橋の闇市〉」(昭40・9「文学界」)
- 「その五 文明開化〈梅田新道〉」単行本書き下ろし。

この小説は、戦中戦後の人心の狂騒や猥雑や歎歎を、やや軽い文体で活写した作品となっており、登場人物と風景とも密接に関連している。例えば「その二」の末尾では、弱い秋の日を浴びる淀川の土堤の点景が、祖国と陛下を守るために、皆ばらばらになっていく様子に感じ入っている主人公の少女の心境によく馴染んでいる。「その三」では、「少国民総けっき大会」が行われ、少年兵の隊列が教育塔の前から進み出すありさまも描かれている。少女期に戦争を体験した田辺聖子までは確実に、「八景」という発想の枠組みが残っているのである。

太宰治も田辺聖子も、小説の題に「八景」を用いながら、作品で紹介する景を厳密に八つに決めることにこだわっていない。執筆過程での構想の変化等が影響しているのだろうが、ともに数を厳守する必要を認めなくなっている点は、興味深い現象ではある。加えて一つ指摘しておくべきは、歌人・俳人と小説家のスタンスの相違であろう。短歌・俳句で「八景」を題材にするならば、実際に「近江八景」等を自身の目で観て、新たな特色を備えたオリジナル作品を創出しようとする方向が主流となるであろう。しかし、太宰治や田辺聖子は自ら景色を選定しようと試みている。少なくとも昭和期の小説においても、「八景」は伝統を尊重する方向ではなく、新たに選ぶ性格のものとして受け止められている。

## 五 現在作られつつある八景

現在、一方では例えば金沢八景や近江八景が美術館で展示をするという歴史遺産として保存しながら、その存在を広く公開している。景勝とまた歴史遺産として生かそうというものである。その一方で、異なる方法で八景を利用しているものがある。和歌山県の「すさみ八景」や北海道の知床八景、鳥崎八景（森町）、旭川八景、また埼玉県の本庄八景など、先に触れた新水戸八景と同様に、景観だけを紹介するものである。

この夏（平成20年）世界遺産になってからは初めて知床を藤田は訪れ、知床半島を巡ってきたが、キタキツネが意外に少なくなったことに驚いた。オシンコシンの滝の近くの川では、遡上する鮭を見ることができたし、エゾシカも間近で見ることができた。しかし、この知床八景も伝統的な八景とは大きく相違し、「新・水戸八景」と同様、景観だけのものであった。

知床八景

- |            |             |
|------------|-------------|
| ① オシンコシンの滝 | ② オロンコ岩     |
| ③ 夕陽台      | ④ プユニ岬      |
| ⑤ フレベの滝    | ⑥ 知床峠       |
| ⑦ 知床五湖     | ⑧ カマイワッカ湯の滝 |

観光の名勝地ではあるが、絵で楽しむものではない。もちろんこれに漢詩や短歌も付いてはいない。観光ポイントとしてホームページでも「知床を代表する八つの風景。訪れる人それぞれに思い出ができることと思います」として紹介している。旭川八景や鳥崎八景も同様で、「地名+〇〇」という「暮雪・夕照・晩鐘、…」という伝統的な形態を離れた八景なのである。八景という言葉が、実は新たな生き方を見つけたことになるのではなかろうか。

埼玉県の本庄市、本庄八景も、伝統的な形態をほとんどと踏襲していないタイプの八景である。本庄市観光協会のホームページから転載する。

本庄八景

市民の憩いの広場（若泉公園）  
本庄祭りと金鑽神社  
緑をなす大久保山の自然と名利宥勝寺  
本庄市街地と赤城の山容

利根の景勝「大利根の夕照」  
若泉の霊域（安養院／普寛霊場）  
歴史を今に伝える本庄城址の城山稲荷神社  
旧本庄警察署（歴史民俗資料館）と田村本陣の門

というものである。「大利根の夕照」が伝統的な八景の形態を守りながらも、他の7つは全く異なり、観光スポットか、市民憩いの場であると思われる。この八景は市政30周年を記念して昭和59年5月に選定されたものである。同じように市民に募集して八景を選定しているのが滋賀県彦根市である。彦根八景は平成7年5月1日に制定された。このような形で、自分たちの街の景観を八景という形態で保存し、観光に役立てようという試みは他にも見られる。

そして、現在、八景を選定中であるのが、東京都北区東田端地区である。東田端鉄道八景は、最初が「与美の夕照」で、選定されたのは平成18年4月22日、次に選定されたのが平成20年2月24日に「下田端夜雨」。まだこの2カ所に過ぎないが、このように“まちづくり”に八景を導入しているのである。



【写真1 与美夕照の説明板】



【写真2 夕陽に映える与美踏切】

八景は、決して過去の遺物ではないことが、以上の例からも窺うことができるのである。

## 六 結論

室町時代に瀟湘八景が日本に伝えられ、絵画とともに鑑賞し、中国の景勝地に思いをはせて、漢詩を作ったことに始まった八景という文化は、やがて和歌とも結びついて、八景和歌ができ、江戸時代には日本各地でその土地土地の八景が生成していく。和歌を伴ったもの、また漢詩を伴ったものが中心であったが、常にその景勝地の絵も伴ったことが特徴であった。しかし、戦後の八景には、どうやら和歌や漢詩は伴うことがほとんどなく、その土地土地の景勝地を選定するという行為となっているように思われる。それでも八景という言葉・文化は、生き続けて、未だに八景が生産され続けているのである。

八景という景勝地を選定するという行為は、その姿を変容しながらも現代まで続いており、またこの八景という文化を活用すれば、新たな名所づくり、観光スポット、まちおこしが可能なのではなかろうか。

## 参考文献

有吉保「中世に及ぼした中国文学の影響 — 瀟湘八景詩の場合」『日本文化の原点の総合的探求 1 言語・文学』

日本大学総合科学研究所 鈴木勝編集・発行 昭和59年刊

堀川貴司『瀟湘八景 詩歌と絵画に見る日本化の様相』国文学研究資料館編 臨川書店・平成14年刊

玉庭小学校創立十週年記念祝賀会発行『郷土史』大正2年刊

田辺聖子「解説」『田辺聖子全集第1巻』集英社 平成16年刊

幸田露伴ほか『日本八景—八大家執筆』平凡社ライブラリー 平成17年刊

参照したHP

<http://www.nies.go.jp/sympo/2001/pos/pos10.html> 「国立環境研究所」

<http://www.honjo-kanko.jp/hakkei.htm> 「本庄市観光協会」

<http://www.city.hitachinaka.ibaraki.jp/1230bunka/mitoha/mitoha.html> 「ひたちなか市／文化課／水戸八景」

<http://www.mitokoumon.com/midokoro/sinmito8/sinmito8.html> 「社団法人水戸観光協会」

<http://www.town.shari.hokkaido.jp/shiretoko/index.htm> 「斜里町観光課」

<http://www.e-tabatatown.net/news.html> 「東田端まちづくり協議会」